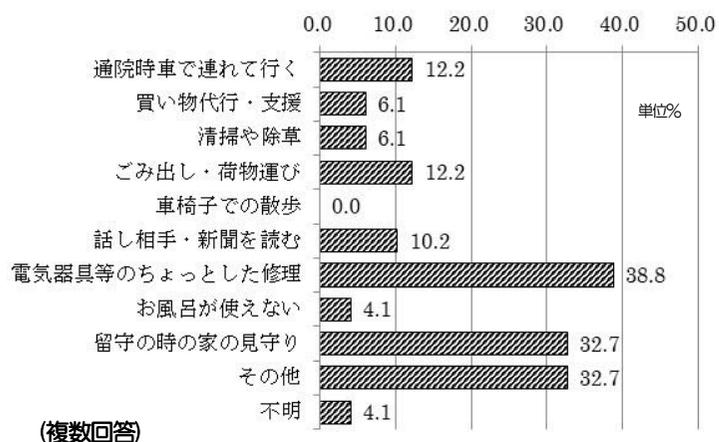


健康福祉と防災の地図づくり事業

元真如堂町健康福祉と防災の
まちづくりを考える会

支えてほしい困りごとと支援できる内容

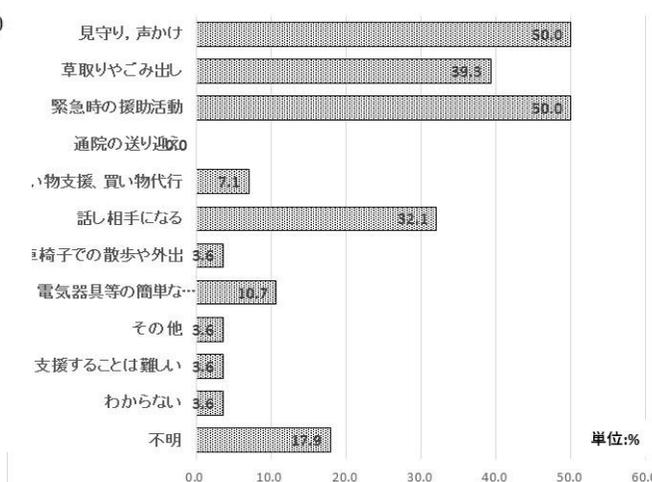


【困りごとの内容】

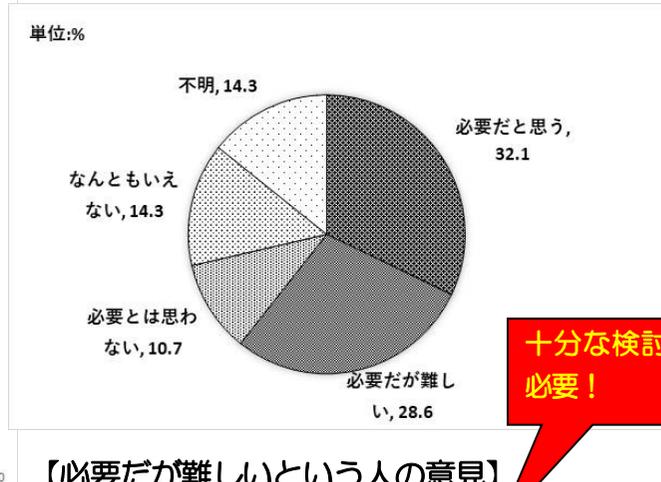
本年度は、地域住民がとこでどのような SOS の声を発しているのか、そして地域の中で支えることができる専門家やボランティアの力がどのようにあるのか、両方を調査して地図に落とし、「見える化」を図る予定であった。新型コロナ感染拡大により、濃厚接触を避けるためヒアリング調査は断念し、アンケート調査に切り替えることにした。

支えてほしい内容は「電気器具等のちょっとした修理」、「見守り」が多く、支援できる内容は「見守り、声かけ」、「緊急時の援助活動」が多かった。また、支え合いの強調だけでは進まず、「暮らし合い、学び合い、支え合い」の関係づくりが必要であることがわかってきた…。

支え合いの会の必要性について



【支援できること】



【必要だが難しいという人の意見】

十分な検討が必要！

- ヘルプのサインを出せる関係づくりがないとよびかけ人以外集まってこないと思うので。
- 町内という長いつきあいの中で弱い体、自分をさらして知り合いに頼り難い子とがるのではないかと。知らない他人だから頼み事をしやすいということもある。
- 人により、近所の人とどの程度かかわりたいかの程度が異なる(今となりの部屋に住んでいる方の顔がわからない)
- 先頭に立ちコーディネートする人が必要だと思うが町内全体が高齢化しているため、人材確保がむずかしい。
- どこまで介入していいものか？

地域の成り立ちを知るところから…!



現在のさくらコートの場所は、成基学園の事務所ビル、その前は佐野さんという、大きな庭のある立派なお宅でした。佐野さんのお宅から、釣り糸をたらし、聖ヨゼフ協会の池で釣りをして遊んだという話も伺いました。

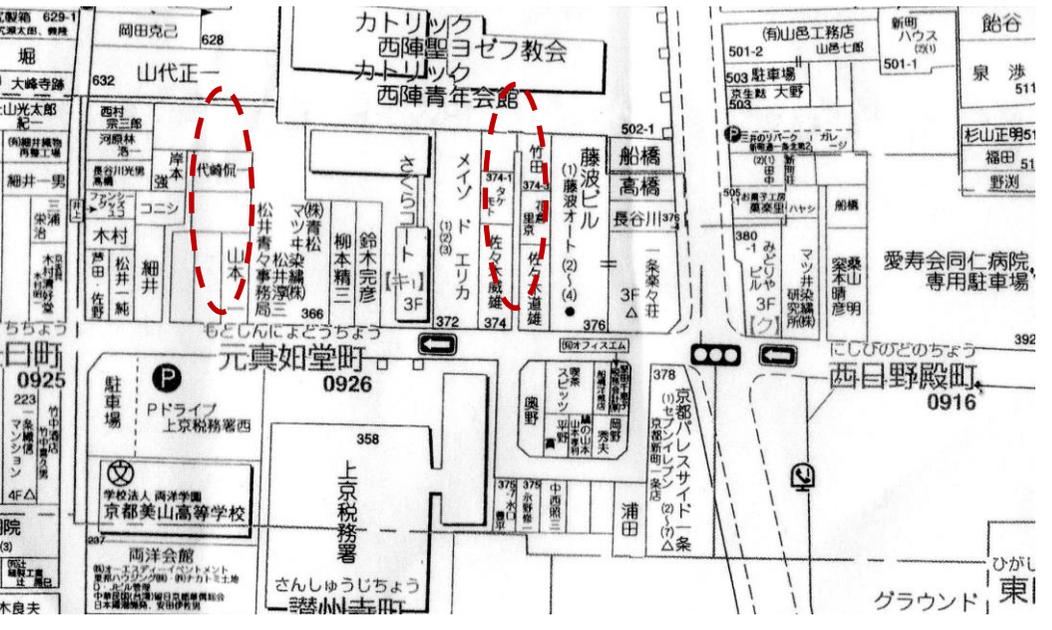
現在建築中の藤波邸シャーマンと隣の三軒は、何十年間かゼネラル石油で、戦前は一軒の大きなお宅でした。

上京税務署は、元是三井家の別荘で玄関は御所のような両開きの大きな御門、和風建築で大きな池がありました。深さが約9mもあって近所の子供達は「谷」と呼んでいたそうです。年に一度、11月のお火焚きの時だけ子供達に門が解放され、お火焚き饅頭や焚き火で焼いたお芋やみかんが振舞われました。また、管理人のご夫婦だけが住んでいたため、男子達はみんなでこっそり出入りし、せमितりなど自由に遊んだということです。

税務署東側には、第13代京都大学総長「鳥養利三郎（1887-1976）」さんの自宅である洋館と、「小倉貢」京都大学工学部教授のお宅の2軒が建っていました。

地域の情報を「見える化」するための地図落としの作業を行います。まずは、地域の成り立ち、伝統や文化をみんなの財産として確認することが重要。町内会の役員・組長、専門家やボランティアの氏名と連絡先を掲載し、いざという時に連絡できるようにします。個人情報の保護に留意し、本人の同意の必要性や保管の在り方を検討していきます。

個人情報保護に留意しながら…!



町内会長	1組長	2組長	3組長	4組長	5組長
氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名

民生委員	氏名	看護師	氏名
老人会役員	氏名	介護士	氏名
保健委員	氏名	ボランティア	氏名



- ひとり暮らし高齢者名簿
- 車椅子利用者名簿
- 災害時要支援者名簿
- 要支援・要介護者名簿

袋路は2か所。入口の屋根が落ちそうな箇所があります。大家さんの理解が必要で、今後の検討課題です。

